

|         |          |         |               |
|---------|----------|---------|---------------|
| 開講期間    | 配当年      | 単位数     | 科目必選区分        |
| 半期      | 1年       | 2       | 選択            |
| 担当教員    |          |         |               |
| 菅谷 幸浩   |          |         |               |
| C (商学部) | L (基礎科目) | SS (社会) | 102 (基礎・入門科目) |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業のねらい (概要) | <p>本講義は現代日本の政治と行政を形作っている諸制度について、近代以降の思想や制度の枠組み、主要先進諸国との比較も含めて理解するためのものである。これから社会科学系の学部で学ぶ学生諸君にとって、日常生活を取り巻く時事問題や、その背景にある制度や組織、思想についての理解は欠くことが出来ない。基礎教養科目の一つとして、これからの大学生活に必要となる基礎的な知識、学習の方法や政治社会への見方を提示することが狙いである。</p> <p>前半では政治学の基本的な概念やキーワード、自由主義・民主主義といった代表的な政治思想、自由民主主義体制のモデルとしての英米両国の統治構造について解説する。後半では現代日本の統治機構（中央と地方の両面）がどのような前提のもとに成立したのか、現在、政治や行政の制度や組織をめぐって、どのような課題が指摘されているのかを学習する。履修学年に鑑み、政治学分野の基礎的内容に比重を置いて講義を進めつつ、憲法学、行政学、社会学、経済学に属する内容に話題をつなげていきたい。</p>  |
| 授業計画        | <p>第1回 【遠隔】 ガイダンス：政治学の目的と関心、人間社会と政治<br/>予習（時間）…シラバスの内容やmellyのスレッドを確認すること（30分）<br/>復習（時間）…ガイダンスでの配布資料、ノートを見直すこと（60分）</p> <p>第2回 【遠隔】 民主政治の歴史と基本理念<br/>予習（時間）：古代ギリシャの歴史、特に都市国家について調べておくこと。（120分）<br/>復習（時間）：ノートの見直し。用語の意味や相互の関連性を意識すること（120分）</p> <p>第3回 【遠隔】 近代市民社会の思想（1）<br/>予習（時間）：宗教改革から絶対王政までの歴史について調べておくこと。（120分）<br/>復習（時間）：ノートの見直し。特に思想の比較に重点を置くこと。（120分）</p> <p>第4回 【遠隔】 近代市民社会の思想（2）<br/>予習（時間）：フランス革命について調べておくこと（120分）<br/>復習（時間）：ノートとレジユメの見直し。特に思想の比較に重点を置くこと（120分）</p> <p>第5回 自由民主主義体制（1）：英国の統治構造<br/>予習（時間）：マグナカルタから名誉革命に至るまでの英国の歴史を調べておくこと。可能であれば、最近の英国の政治報道についてチェックしておくこと（150分）<br/>復習（時間）：ノートとレジユメの見直し。特に議院内閣制の確立に至る歴史的背景に重点を置くこと（120分）</p> <p>第6回 自由民主主義体制（2）：米国の統治構造<br/>予習（時間）：アメリカ独立戦争について調べておくこと。可能であれば、最近の米国についての政治報道をチェックしておくこと（120分）<br/>復習（時間）：ノートとレジユメの見直し。三権分立制、特に大統領と連邦議会の関係について、議院内閣制との比較を意識して復習すること（150分）</p> <p>第7回 【課題】 政治思想と政治体制 / 市場と国家（1）：消極的国家観（夜警国家）の登場<br/>予習（時間）：課題については、第1回から第6回までの授業内容を復習しておくこと。小テストにより理解度を測定する。また、産業革命前後の歴史について調べておくこと。（120分）<br/>復習（時間）：ノートの見直し。特に経済学・哲学の考えを復習すること（120分）</p> <p>第8回 市場と国家（2）：積極的国家観（福祉国家）の登場<br/>予習（時間）：世界恐慌について調べておくこと（120分）<br/>復習（時間）：ノートの見直し。可能であれば、参考書籍『政治学・行政学の基礎知識』第20章・第24章を読むこと（150分）</p> <p>第9回 市場と国家（3）：現代中国の開発独裁体制<br/>予習（時間）：辛亥革命から天安門事件までの歴史を調べておくこと。可能であれば、最近の中国についての報道内容をチェックしておくこと（150分）<br/>復習（時間）：ノートとレジユメの見直し。授業内で解説した事項についての政治報道を再チェックすること（120分）</p> <p>第10回 現代日本政治の構造（1）：議院内閣制<br/>予習（時間）：明治憲法下の内閣と議会について調べた上で、日本国憲法第5章に目を通しておくこと（120分）<br/>復習（時間）：ノートとレジユメの見直し。可能であれば、参考書籍『現代政治のナビゲーター』第8章を読むこと（120分）</p> <p>第11回 現代日本政治の構造（2）：国会と立法過程<br/>予習（時間）：現在の国会議員定数や組織（本会議・委員会）について調べておくこと。詳細は前週に指示する（120分）<br/>復習（時間）：ノートとレジユメの見直し。用語の復習に重点を置くこと（120分）</p> <p>第12回 【課題】 世界と日本の統治機構 / 現代日本政治の構造（3）：地方自治の現状と課題<br/>予習（時間）：課題については第7回から第11回までの授業内容を復習しておくこと。小テストにより理解度を測定する。また、「地方自治の本旨」、住民投票や地方首長選挙について調べておくこと（120分）<br/>復習（時間）：ノートとレジユメの見直し。特に直接請求権と住民投票権、平成以降の地方分権の動きを意識すること。発展学習として、参考書籍『政治学・行政学の基礎知識』第26章を読むこと（120分）</p> <p>第13回 政党と利益団体<br/>予習（時間）：日本を含む主要先進諸国の政権与党について調べておくこと。詳細は前週に指示する（120分）<br/>復習（時間）：ノートとレジユメの見直し。普通選挙制導入の以前と以後で政党の性格がどのよ</p> |

|                         |  |
|-------------------------|--|
|                         | <p>うに変化したのか確認すること（120分）<br/>現代日本の選挙制度<br/>予習（時間）：現在の衆議院議員総選挙・参議院議員選挙の制度的概要を調べておくこと（120分）<br/>復習（時間）：ノートとレジュメの見直し。特に中選挙区制と小選挙区比例代表並立制の違いを確認すること（120分）</p> <p>予習（時間）：国・地方公共団体の行政委員会、各省庁の審議会について調べておくこと（120分）<br/>復習（時間）：ノートの見直し。発展学習として、参考書籍『行政学』第5章を読む。（120分）</p> <p>第15回<br/>【課題】地方自治と政党・選挙 / 官僚制<br/>予習（時間）：課題については、第12回から第14回までの内容を復習しておくこと。小テストにより理解度を測定する。国と地方公共団体の行政委員会、各省庁の審議会について調べておくこと（120分）<br/>復習（時間）：ノートとレジュメの見直し。特に2001年の中央省庁再編とそれ以降の動きを確認し、可能であれば、参考書籍『行政学』第4章・第5章を読むこと。（150分）</p> |
| 授業を通して身に付けることができる能力（DP） | <p>商学部ディプロマポリシーのうち、「情報の収集、分析を行い、進んで課題解決に臨む姿勢」、「専門的分野での学びを、実務や社会で応用できる能力」の2点を意図している。</p> <p>【身に付くスキル】<br/>情報活用能力・生涯学習力</p>  |
| 到達目標                    | 政治報道を含む時事的な内容を理解し、制度の特徴や歴史的背景を説明できるようにする。最終的には公務員試験の社会科学領域で出題される内容にまで触れることができるようにする。   |
| 課題や小テスト等のフィードバックの方法     | 小テストについての所見や解説はMellyのスレッドで行う。  |
| 履修上の注意                  | 第1回目の授業に必ず出席すること。板書による講義形式で進め、同時に、学生の視覚的理解を促すため、パワーポイントも併用するので見やすい位置に着席すること。なお、かつて米国のある教育学者は「大学の研究・教育の水準はその国の文化的水準を表すものである」と述べている。この言葉を俟つまでもなく、大学は義務教育の場でもなければ、生活指導の場でもない。意欲的に知識を吸収するという姿勢をもって教室に来てもらいたい。授業の進行を妨げる行為が見受けられる場合は学期途中でも厳しく対処する。   |
| 成績評価の方法・基準              | 学期末試験（50%）、学期中の小テスト（50%）の割合で評価する。  |
| 教科書                     |  |
| 参考書・教材                  | <p>【参考書】<br/>『現代政治のナビゲーター 第2版』 著者名：甲斐祥子 出版社：北樹出版 発行年：2014年 価格：2300円<br/>『政治学・行政学の基礎知識 第3版』 著者名：堀江湛 出版社：一藝社 発行年：2014年 価格：2500円<br/>『行政学』 著者名：原田久 出版社：法律文化社 発行年：2016年 価格：2200円</p> <p>【教材】 特定教科書は使用しない。必要により資料を配布するので、各自でファイリングしておくこと。配布資料はMellyにアップするので、欠席した場合は各自でダウンロードすること。</p>   |
| 備考                      | 講義科目 「成績評価の方法・基準」欄にある定期試験については、本学の感染状況への対応を踏まえて最終レポートで代替することもある。その場合は速やかにMellyおよび授業内で詳細を告知する。  |
| 教員との連絡方法                | Mellyならびにメール（アドレスはガイダンス時に案内する）   |